

概 況

1. 畜種別取扱高

令和7年中の東京都中央卸売市場食肉市場（以下「東京市場」という。）における畜産物の取扱状況は、頭数約36万頭、重量約8万5千トン、金額約1,528億円となり、前年と比べ頭数は概ね同数、重量で約0.4%減、金額で約3.7%の増加であった。

畜種別に見ると、牛は頭数約13万8千頭、重量約6万6千トン、金額約1,410億円となり、前年と比べ頭数で約1.9%減、重量で約0.9%減、金額で約4.1%の増加であった。

豚は頭数約22万6千頭、重量約1万9千トン、金額約116億4千万円となり、前年と比べ頭数で約1.2%増、重量で約1.4%増、金額で約0.7%の減少であった。

2. 産地別取扱高

牛については、44都道府県から入荷があった。東京市場における入荷量の順位を重量で見ると、1位千葉県、2位北海道、3位栃木県、4位茨城県、5位岩手県、6位群馬県、7位宮城県となっており、この7道県で東京市場の約68%を占めた。

豚については主に関東、東北の25都道県から入荷があった。東京市場における入荷量の順位を重量で見ると、1位群馬県、2位岩手県、3位茨城県、4位栃木県、5位千葉県となっており、この5県で東京市場の約72%を占めた。

3. 年間市況

令和7年の日本経済は、暦年の実質GDPが前年比1.1%とプラス成長となったものの、実質賃金は昨年比-0.8%となった。生鮮食品やエネルギーを中心に物価の上昇が継続している一方で、賃金の上昇が物価の上昇に追いついていないため、消費者の節約志向が続いている状況がある。

牛の全国と畜頭数(成牛)は約109万頭(対前年比約1.8%減)であり、このうち東京市場での取引頭数は約13万8千頭で全国取引頭数の約12.6%を占めた。東京市場における牛の年間平均価格は1kg当たり2,100円で、前年に比べ95円(4.7%)高となった。

東京市場における牛の取引は、全国と畜頭数、また東京市場の取引頭数が前年から減少したこともあり、3年連続で前年割れとなっていたA5及びA4等級の和牛の年間平均価格が上昇し、特にA4は前年比3.7%増(80円高)となった。交雑牛については前年同様に、和牛や、円安等の影響で価格の上昇した輸入牛肉の代替需要等から相場が堅調となり、主要な等級で年間平均価格が前年を上回る結果となった。

豚の全国と畜頭数は約1,607万頭(対前年比約1.2%減)であり、このうち東京市場での取引頭数は約22万6千頭で全国取引頭数の約1.4%を占めた。東京市場における上物の豚生体枝肉の年間平均価格は1kg当たり644円で前年に比べて6円(0.9%)安となった。

東京市場における豚の取引は、東京市場への入荷は増えたものの、全国と畜頭数が減少

傾向となったこと等から、昨年同様年間を通して堅調な相場展開となった。

年明けは豚熱の発生や、気温の低下による鍋物需要の伸びなどにより、3月までは例年よりも高値を付けたが、その後は相場が落ち着いた。6月に入ると猛暑の影響により全国と畜頭数は伸び悩み、6、7月は高値だった前年の相場を上回った。特に7月は上物の月間平均価格が860円を超えるなど、異例の高値で推移した。8月に入ると夏休みで学校給食が休みになることもあり相場は落ち着きを見せ、その後は冬に向けて堅調に推移したものの、前年よりもやや下回る展開となった。